

【第37号】

令和3年3月発行

## 白河地域在宅医療 拠点センター通信



一般社団法人 白河医師会  
白河地域在宅医療拠点センター  
副センター長 杉原常夫  
〒961-0908  
福島県白河市大手町 3-8 レジデンス楽市 I-105  
TEL:0248-21-8923 FAX:0248-21-9267  
平日 8時30分～17時15分 (土日祝日休み)

### 市町村担当者会議が開催されました

白河地域医療・介護連携推進協議会市町村(5市町村)担当者会議が2月17日(水)13:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。開催にあたり、拠点センターに新しく導入された自動体温測定器による検温と手の消毒を行い、感染症対策を行っていただき開催されました。

杉原副センター長の司会により、冒頭、関 元行拠点センター長(白河医師会会長)の以下挨拶がありました。  
本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠に有難うございます。残念ながら、矢吹町と中島村さんは、本日欠席となっております。

コロナウィルス感染症のため、これからワクチン投与のための仕事が山積しているためと思われます。ただ、白河地域在宅医療拠点センターの業務に関しては5市町村からの委託事業であり、主体は市町村にあります、その主体となる方がご欠席というのは、大変残念ですが、今後この事業に関心を持っていただくことが重要と思います。今日、ご出席の方には大変感謝申し上げます。  
本日の議題ですが、昨年9月に在宅医療・介護連携推進事業の手引きが改定されました。

それによりますと、今まで8つの事業項目を中心に行っているところですが、今後は、8つの事業項目に限らず、切れ目のない在宅医療と介護の連携体制を構築するため、地域の事情に応じて、取り組み内容の充実を図りつつ PDCA サイクルに沿った取組みを継続的に行うことによって本事業で目指す姿の実現に向けて事業を進めていきたいと思っております。

したがって、最初に白河地域在宅医療・介護連携推進事業実施要綱および白河地域在宅医療・介護連携推進事業業務委託仕様書の修正についてご協議いただき、次に当拠点センターの次年度の事業計画を作成するために、各市町村さんからの実施を依頼したい事業や実施したい事業等についてご意見をいただきたいと思っております。皆様の忌憚のないご意見を多くいただき実のある会議になることをお願いしまして私のご挨拶とさせていただきます。

続いて、白河市高齢福祉課の前田貴幸様より、令和3年4月1日より施行される「白河地域在宅医療・介護連携推進事業実施要綱」および「白河地域在宅医療・介護連携推進事業業務委託書の修正」について説明がなされました。

議題の2として、各市町村から下記の発表がありました。

白河市：推進協議会は医療・介護関係者の代表が一堂に介する場であるため、推進協議会の機会を有効に活用しながら PDCA サイクルをまわしていくことが必要でないか。また、コロナ禍の影響により、状況によってはオンラインでの会議の実施も検討する。

連携ガイドの更新は、関係者がより活用しやすいガイドとなるよう、形式や必要な情報、記載の仕方などについて部会等での検討も踏まえつつ更新を行う。退院支援ルールについては県南保福が中心となって策定・運用を行っているが、今後も県南保福と綿密に連携しながらルールのさらなる普及啓発を行っていく。

このほか、相談窓口の浸透、ACPの普及啓発、出前講座の実施、市民講演会の開催についても、次年度の重点活動として進めていく。また、情報共有ツールの普及、多職種研修会の実施、市町村担当者会議の定期的な開催も行っていく。

西郷村：地域に向けてあったかサロンの啓蒙活動。閉じこもりになっている方を集会場などに集めて活動を行う。

泉崎村：まだ話し合いをしないまま参加してしまったので後程話し合いを設けてFAXをしますとの事。

中島村：欠席のため書面にて⇒実施を依頼したい事項 当村のサロンにて出前講座を希望。現在サロンは4箇所あるがコロナなどの影響により参加者数や活動回数が減少傾向である。住民が参加したいと思えるような出前講座を依頼しサロンの充実化を図りたい。実施したい事業としては村内の医療・介護関係者等の多職種が集まり、医療、介護に関する課題や現状について話し合い、医療と介護、そして村が密に連携できるように意見交換の場を設ける。地域医療・介護連携推進に係る事業の充実化を図りため、村、村地域包括支援センター、白河地域在宅医療拠点センターで検討会を実施したい。

矢吹町：欠席のため書面にて⇒来年度事業についてですが、コロナ禍により事業実施の困難さや、来年度から国保、後期高齢、介護の一本化した健康増進事業の計画策定、実施等予定されている事もあり、現段階で町が新たに実施を考えている事業はありません。

全体の課題認識としては、白河地域での在宅診療を引き受けていただける医師が少ないこと、また県南にある訪問看護ステーションの運営基盤(人的・財務的)が脆弱なこと、市町村間で連携が取れていないことなどが挙げられました。

クロージングにあたり、杉原副センター長より下記発言があり、閉会となりました。

改めまして、次回は3月17日に市町村担当者会議と医療・介護多職種連携協議会の両方一緒に開催をさせていただきます。その時には今年度の報告と次年度の計画についてご報告をさせていただきます。また連携協議会の人選については、同じメンバーになるかの確認をさせていただきます、委嘱状を作成いたします。



## ACPコアメンバーグループワーク

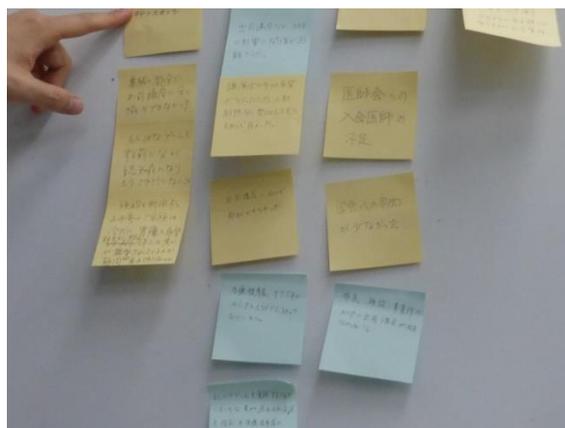
令和2年1月18日(月)の第46回ACP(アドバンス・ケア・プランニング)グループワークは、コロナ感染症予防のため中止となりました。

第47回ACP(アドバンス・ケア・プランニング)しらかわコアメンバーによるグループワークは、2月15日(月)16:30より白河地域在宅医療拠点センターにて開催されました。開催にあたり、拠点センターに新しく導入された自動体温測定器による検温と手の消毒を行い、感染症対策を行い開催されました。

第47回テーマは、ACPLしらかわコアメンバーの今後の活動についてとし、①これまでの振り返り ②私たちが直面している課題(コロナ禍など)③自分たちの活動に対する振り返り ④その後の提案(2021年度活動)について、意見が交換されました。

自分たちの活動に対する振り返りではリーダーの東光久医師の提案によりKPT法(\*)による振り返りとなりました。

(\*)Keep:できたこと、続けたいこと Problem:できなかったこと、改善したいこと、Try:2021年度でやりたいこと



## 医療・介護多職種連携の集い

令和3年1月16日(土)、福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 講師 菅家智史 先生をお呼びして「コミネス小ホール」で開催予定の「医療・介護多職種連携の集い」はコロナ感染症対策のため中止となりました。

## あったかサロン出前講座

令和3年2月15日、あったかサロン代表者に白河地域在宅医療拠点センターの活動内容や、下記の11の出前講座メニューについて杉原副センター長より説明を行いました。すると、さっそく反応があり、多くの出前講座の依頼が寄せられました。

### (出前講座メニュー)

- ・ACP&もしバナゲーム
- ・笑いの健康教室
- ・高齢者と薬:多すぎる薬と副作用
- ・食事で見直す、心と体の健康づくり
- ・元気に生きる!
- ・家にいても受けられる医療
- ・みんなのリハビリ体操
- ・始めませんか?口腔ケア
- ・腰痛、膝の痛み、足の痛みの予防エクササイズ
- ・認知症とその予防について
- ・大切な目を守るために

(参考) ホームページ閲覧時のユーザー名: ishikai パスワード: xxx18